

関上復興の風帆を張れ

来月、セーリングイベント

東日本大震災で被災した名取市関上地区でヨットハーバーの復旧工事が進められており、今月中に利用できる見通しとなった。「全国でも指折りの水域」が基大な被害を受けてから7年が過ぎた。関上を愛する学生らが5月下旬、ヨットハーバー復活をアピールするセーリングイベントを開く。

県セーリング連盟(多賀城市)によると、休憩所などが入る建屋と浮桟橋、ヨットを海面に下ろすための「斜路」と呼ばれる施設が整備される。浮桟橋は既に完成し、現在は斜路を造成中。建屋を含めた完工は今年秋になる見込みだが、4月末までにはヨットを楽しめる状況になるといふ。

これを受け、学生セーラーと同連盟は5月25〜27日



に「北日本オープンヨット選手権」の開催を決定。関上地区の笹かまほこを振る舞うなどし、レース参加者以外も楽しめるよう工夫する。復活を見越して2016年に始めた「春季東北学生オープンヨット選手権」を改称する。

外洋に面した関上ヨットハーバーは良い風が吹き、小島や航路などによって練習エリアが制限されない宮城・東北のヨットの拠点だったが、津波で壊滅状態となった。セーラーは松島町や七ヶ浜町で練習してきたが、関上再興の機運が日増しに高まり、名取市を通じて県に復旧を要望。16年度に再整備が始まった。

同連盟理事で東北大4年の伊藤大貴さん(23)は、北日本選手権の審判長として関上の海に出る。「ヨットを始めたばかりのころに親しんだ海で、とてもワクワクしている。東北のヨットの新しい一ページを開く場所に立てることがうれしい」と話す。

ヨットハーバー 7年ぶり復活へ



整備が進むヨットハーバーを見つめる伊藤さん